一週間でマスターする Adobe Photoshop 5.5 for Windows

[……吉岡　ゆかり 著……]

1 week masters series

本書について

・本書はアドビシステムズ株式会社が発売しているWindows対応のグラフィックソフトウェア「Adobe(R) Photoshop(R) 5.5」日本語版の解説書です。
・本書および特別付録CD-ROMはAdobe Photoshop 5.5 for Windowsでの利用を前提に執筆・作成しております。
・本書の特別付録CD-ROMは本書学習用のサンプルデータおよび「Adobe(R) Photoshop(R) 5.5トライアウト版」を収録したものであり、市販のソフトウェアは収録されておりません。ご注意ください。
・本書中の図版は、Windows98上で作成されています。
・本書は短期間で「Adobe Photoshop 5.5」の主要操作を習得することを目的としているため、本書中で触れていない機能もあります。
・「Adobe Photoshop 5.5」の動作に必要なシステム構成などにつきましては、ソフトウェア本体付属のマニュアル等を参照してください。
・本書中の記述は、Windowsの基本操作をマスターしていることを前提にしています。Windowsの機能や操作方法に関しては書籍「一週間でマスターするWindows98」などを参考にしてください。
・本書に登場する製品のスペック、価格などの情報は本書執筆時点でのものです。執筆以降に変更されている可能性があります。
・本書の特別付録CD-ROMはWindows95/98上で動作し、動作環境は「Adobe Photoshop 5.5」の動作に必要なシステム構成に準じます。CD-ROMの内容および使用方法については本書の「準備編」のページを参照してください。
・本書の記述に関する運用結果につきましては、いかなる場合でも弊社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本書付属CD-ROMの収録内容

・本書学習用の素材ファイルと完成サンプル
・Adobe(R) Photoshop(R) 5.5トライアウト版

本書の特徴と効果的な使い方

Adobe Photoshopは、ふだん皆さんが目にしている雑誌やポスターなどには欠かせない存在で、印刷業界では画像処理ソフトの定番です。その他、CD-ROMやWeb、テレビなどの画像を作るツールとしても利用されています。そのPhotoshopが5.0から5.5へとバージョンアップしました。数字だけで判断すると、たいしたバージョンアップではないと思われるかも知れませんが、「ImageReady」という、これまで別売だったWeb画像作成ソフトがバンドルされ、Webグラフィックに携わる人にはもちろん、これから始めてみようかと思っている人にもおすすめしたい内容になっています。

Adobe Photoshopが登場してから約10年になりますが、その人気は衰えることなく、今なおデザイン、印刷業界をリードする存在です。これもプロ向けソフトならではの細やかな機能と、ユーザーに優しいインタフェースがあったからでしょう。本書はそんなAdobe Photoshopの基本操作を、わかりやすく解説した入門書です。

●

本書で風景などの写真を提供してくださったカメラマンの藤崎礼二さんが、今年の夏、ニュージーランドのご自宅でお亡くなりになりました。これまでたくさんの写真を快く提供してくださり、本書を支えてくださった藤崎さんに、著者、担当編集者ともに深く感謝し、心よりのご冥福をお祈り申し上げます。また、今後も変わらず写真提供を快諾してくださったご家族の方へも、この場を借りて重ねて御礼申し上げます。

本書の特徴と効果的な使い方を以下にまとめます。

◆特徴1——月曜日から日曜日まで1日に1つの課題をマスター

1日に1つの課題を学習し、ステップアップしながら、1週間でAdobe Photoshopの基本的な操作から応用まで確実にマスターできます。

◆特徴2——1日のメニューは課題とコラムで構成

課題をとおして基本的な操作を習得し、コラムで実践に必要な知識を幅広く身につけることができます。

◆特徴3——それぞれの課題は、すぐに役に立つ実践例が中心

毎日の課題は、すぐに役立つ実践例が中心です。本書をマスターすれば、Adobe Photoshopを思いのままに使いこなすことができるようになります。

◆特徴4——素材CD-ROM付きだから、用意するものはソフトウェアと本書だけでOK！

特別付録CD-ROMに、本書の作例制作で使われているサンプルを、すべて収録しました。CD-ROMのサンプルを使って、今すぐ学習を始めることができます。

本書が入り口となって、読者の皆さんがAdobe Photoshopを効果的に使いこなしていくことを願っています。

CONTENTS

バックカバーを作る　金曜日

CDレーベルを作る　土曜日

ImageReadyでホームページを作ろう　日曜日

付録

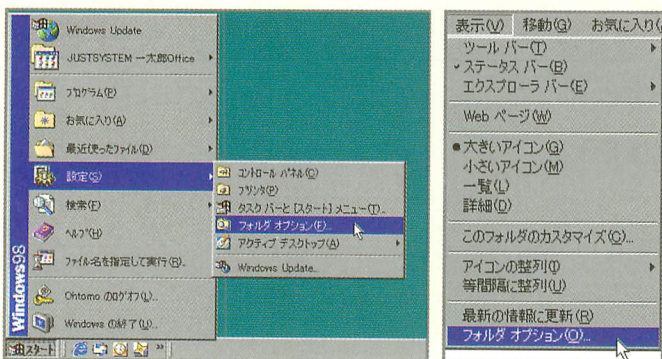
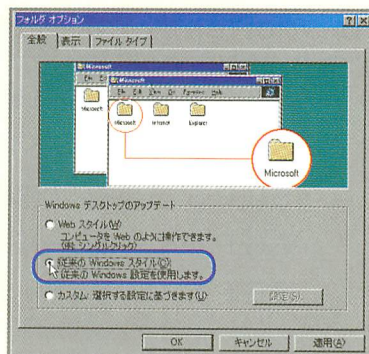
準備編

これから一週間のカリキュラムが始まるわけですが、まず学習を始めるにあたっての準備を行いましょう。ここでは、「パソコンの準備」「Photoshop5.5 for Windows Tryout版の使い方」「学習用素材の入った本書付属CD-ROMの準備」について説明します。

① パソコンの準備

Windowsではさまざまな環境設定が行えますが、操作スタイルや画面表示を統一するため、次のような設定を行ってください。本書ではこの設定を行ったWindows98の環境を前提として操作や解説を進めていきます。

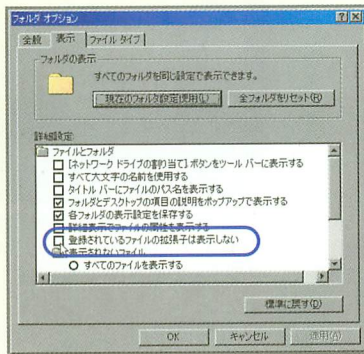
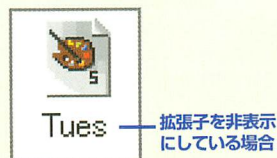
● デスクトップの設定を［従来のWindowsスタイル］にする

本書ではデスクトップのスタイルを［従来のWindowsスタイル］に設定し、解説しています。［従来のWindowsスタイル］では、ファイルやフォルダをダブルクリックで開きます。デスクトップのスタイルは、［フォルダオプション］ダイアログボックスで変更することができます。本書の環境に合わせる場合はここで設定を変更してください。

1 ［スタート］メニュー→［設定］→［フォルダオプション］を選択します。または、フォルダのウィンドウにある表示メニューから［フォルダオプション］を選択しても同じです。

2 ［フォルダオプション］ダイアログボックスが開きます。［Windowsデスクトップのアップデート］欄の［従来のWindowsスタイル］をクリックして［OK］ボタンをクリックします。

3 フォルダやファイルを選択するときは、アイコンをクリックします。開くときは、マウスポインタをアイコンに重ねてダブルクリックします。

ファイルの拡張子を表示させる

Windows98（またはInternet Explorer4.0以上がインストールされたWindows95）は「拡張子」というファイル名の後ろに付く「.（ピリオド）」以降の3文字の英字によって、ファイルの種類を区別しています。「フォルダオプション」の設定によって、拡張子を表示させるか非表示にするか決めることができます。本書では拡張子を表示させて作業を進めていきます。

1 先ほどと同様に［フォルダオプション］を開き［表示］タブをクリックします。

2 ［詳細設定］欄の［登録されているファイルの拡張子は表示しない］のチェックを外します。設定が済んだら、最後に［OK］をクリックします。

3 左が拡張子を表示させたもの、右が非表示にしたものです。

❷ 特別付録CD-ROMの使い方

素材データの使い方

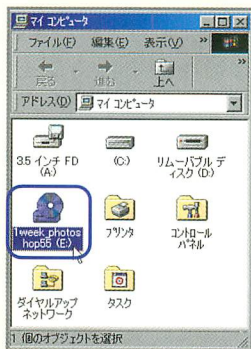
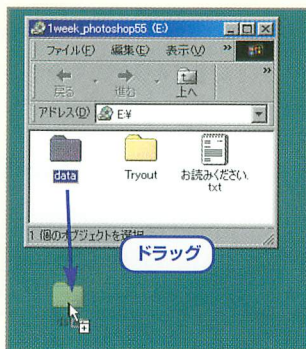
特別付録CD-ROMには、本書で作成するサンプルの素材と完成見本が収録されています。

データはCD-ROMの中の「data」フォルダの中に収録されています。サンプルをご利用の際は、「data」フォルダごとハードディスクにコピーしてお使いください。CD-ROMから直接開くこともできますが、本書ではデスクトップにコピーして使用することを前提として解説していますのでご了承ください。なお、CD-ROMからハードディスクにコピーしたファイルはすべて「読み取り専用」になっています。ファイルを保存し直す際には「別名で保存」してください。

「data」フォルダの中は「1_Monday」から「7_Sunday」まで、各曜日ごとのフォルダに分かれています。

収録されているサンプルの完成見本は、本書での学習以外には使用しないでください。印刷物、ホームページ等への素材データの転載を禁じます。

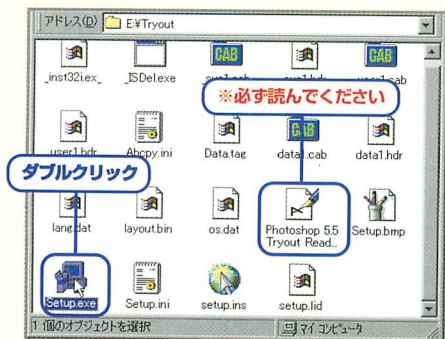
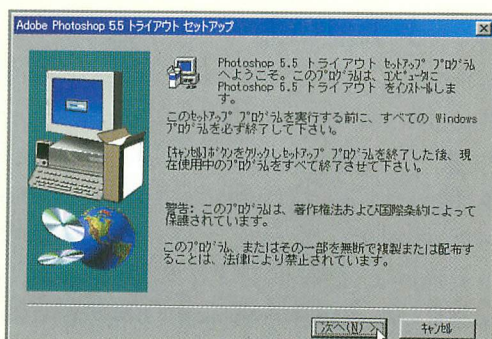
準備編

素材データをコピーする

1 デスクトップ上にある「マイコンピュータ」をダブルクリックして開き、その中の「1week_ photoshop55」をダブルクリックして開きます。

2 CD-ROMの中身が表示されます。「data」フォルダをデスクトップにドラッグします。

3 デスクトップに「data」フォルダが移動したら、コピーは完了です。

Adobe Photoshop5.5 Tryout版のインストール

Tryoutフォルダの中には、Photoshopの機能を体験したい方のために、「Adobe(R) Photoshop(R) 5.5トライアウト版」を収録しています。Adobe Photoshop 5.5トライアウト版では保存、印刷などの機能が制限されています。本書の解説はすべてAdobe Photoshop5.5製品版に基づいて執筆されております。トライアウト版で操作する場合は同じようにならないことがありますのでご注意ください。

トライアウト版使用に必要なシステム構成、機能制限の詳細につきましては、「Tryout」フォルダに入っている「Photoshop 5.5 Tryout ReadMe.wri」ファイルをご参照ください。

1 CD-ROMの「Tryout」フォルダをダブルクリックして開きます。その中の「Setup.exe」ファイルをダブルクリックします。

2 セットアッププログラムが起動します。あとは画面の指示に従って、セットアップ作業を進めてください。

Monday

1 WEEK MASTER
1st DAY !!!

今日マスターすること

TODAY'S GOAL !!!

「これだけで、コースターも作れちゃう」

STEP 1 ••（1週間の始まり

STEP 2 ••（環境を整える

STEP 3 ••（起動画面とツール

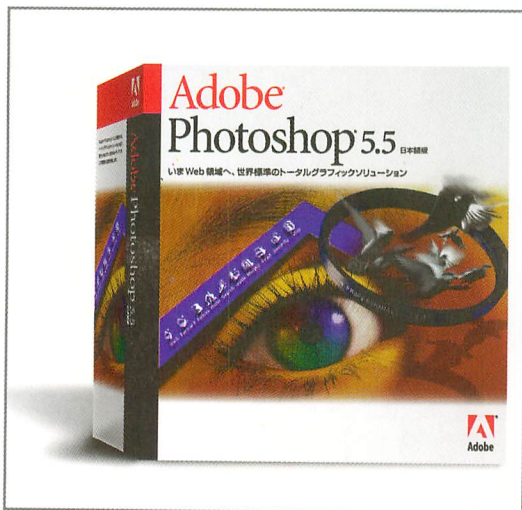
STEP 4 ••（コースターを作る

1週間の始まり

☞Adobe Photoshop（アドビ・フォトショップ）

Adobe Photoshopは、Adobe Systems社の製品で、現在はバージョン5.5です。Windows版のほかにMacintosh版もあり、グラフィックソフトの中でも、とても人気の高いソフトです。また、初心者向けに機能制限付きの「Photoshop5.0 LE版」もあります。

グラフィック、3DCG、Webに大活躍のPhotoshop

Adobe Photoshopは、ポスター、CDジャケット、雑誌、ホームページなど、さまざまな制作の場で使われています。平面だけでなく、3D作品やアニメーション作りにも欠かせません。

▲新しいバージョンのPhotoshopのパッケージです。

☞ヒント!!

Photoshopに必要なシステム構成

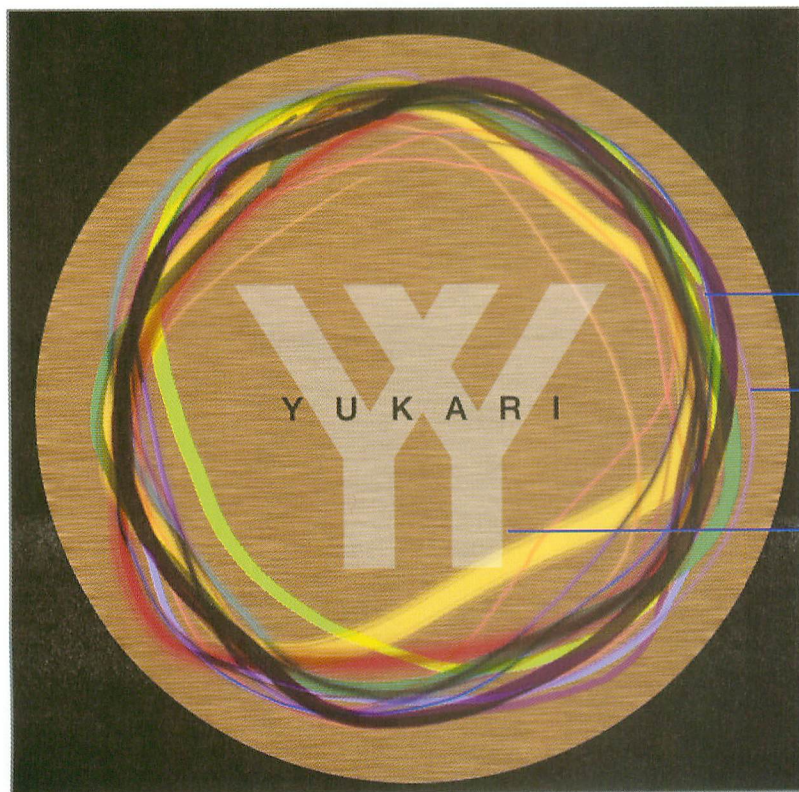
Photoshopを使うにはどんなハードウェアが必要かを説明しましょう。基本となるマシンの選定ですが、高速なマシンに越したことはありません。もし、Photoshopのためにお金を使うのであれば、メモリを増設することをおすすめします。Photoshopでは非常に多くのメモリを消費します。以下に必要なメモリとハードディスクを示しますので、参考にしてください。

●メモリ
64 MB 以上のRAM（Photoshop のみ起動の場合）
32MB 以上のRAM（ImageReady のみ起動の場合）
96MB 以上のRAM（両アプリケーション起動の場合）

●ハードディスク
130MB 以上の空き容量のあるハードディスク
100MB 以上の空き容量（Photoshop のみインストールの場合）
80MB 以上の空き容量（ImageReady のみインストールの場合）

初日から魅力たっぷりの作品作り

今日は、Photoshopを使うための環境を整えた後に、基本操作はすっ飛ばして、いきなり「おしゃれなコースター」を作ります。はっきり言って、かなり大胆な進行です。初日に、作品作りを通してPhotoshopの魅力をたっぷり味わってもらい、とりこにしてしまおうというのがねらいです。うまくとりこになっていただけたら、「火曜日」からの基本操作もきっと楽しく進められるはずです。

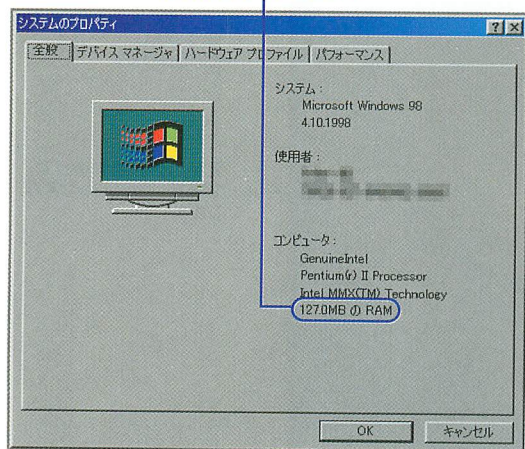
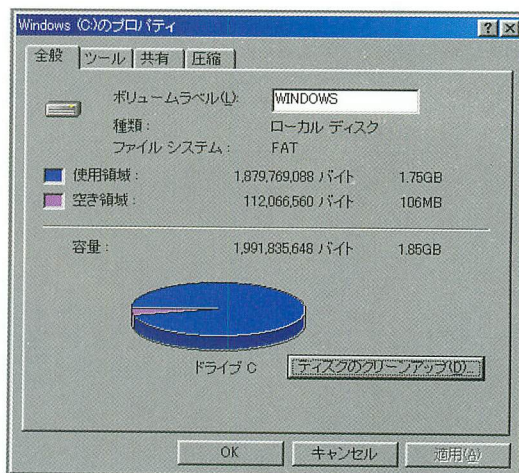
コースター作りでは、機能的には中級レベルのテクニックも含まれますが、楽しんでもらうことが目的ですから、細かい説明は省いています。1週間の学習を終えて、理解していればいいでしょう。

▲これが今日作るコースターです。

環境を整える

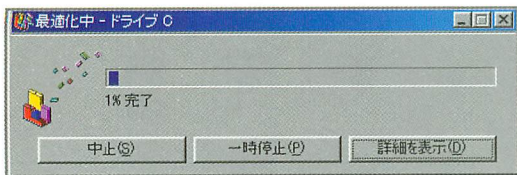
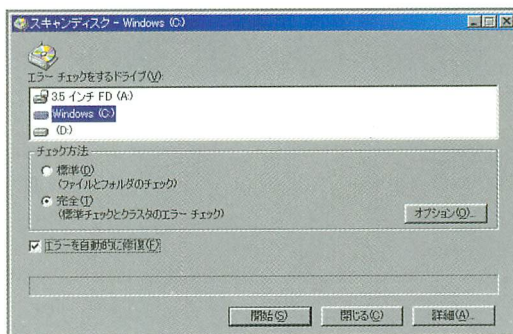
ハードディスクを整備する

より快適に作業するためには、環境を整えることも忘れてはいけません。いったん作業を始めてしまうとなおざりにしてしまいがちな環境整備ですが、ここを整備しておくことで、処理スピードやエラーの回数が違ってきます。

Photoshop5.5は、ヒストリー機能などが大量のメモリとハードディスクを消費します。ですから、Photoshopのための環境整備としては「メモリやハードディスクを増設する」というのが一番効果的です。といっても、予算の関係もあると思いますし、ここではお金をかけないで環境を整備する方法を説明します。

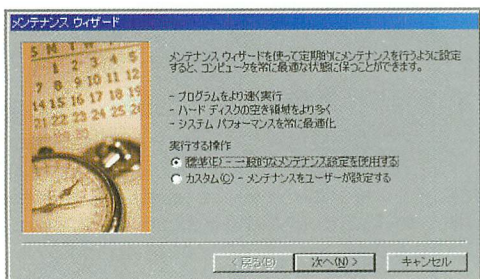
Windowsでは、作業中にメモリが足りなくなると、自動的にハードディスクに「スワップファイル」というメモリの代替品を作ります。メモリの代わりにハードディスク上のスワップファイルにアクセスすることになりますから、まずスワップファイルのための余地が作れるように、ハードディスクの空きを確

1 まず、パソコンに搭載されているメモリを確認しましょう。［スタート］メニュー→［設定］→［コントロールパネル］とたどっていって、［システム］アイコンをクリックすると［システムのプロパティ］ダイアログボックスが表示されます。ここで、搭載されているメモリの量がわかります。

2 次にハードディスクの空きを確かめます。［マイコンピュータ］を開いて、確かめたいドライブのアイコンを右クリックし［プロパティ］を選ぶと、ディスクの使用状況がわかります。Windows98の場合は［ディスクのクリーンアップ］ボタンを押すと、不要なファイルを削除して空きを広げることができます。

保しておかなければいけません。最低でも、搭載しているメモリ容量の2倍は確保しておきましょう。

また、Windowsに備えられている「デフラグ」「スキャンディスク」などのユーティリティを使って、ハードディスクのファイル配置を最適化したり、エラーを除去しておきましょう。こうすることで、処理スピードを上げることができます。

3 ハードディスク内のファイル配置を最適化する「デフラグ」。月に1度は実行しておきましょう。[スタート] メニュー→ [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] とたどっていくとあります。

4 ハードディスクのエラーを検査し、除去する「スキャンディスク」。デフラグと同じように、[スタート] メニュー→ [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] とたどっていきます。

☞ヒント!!

Windows98の便利ツール　1

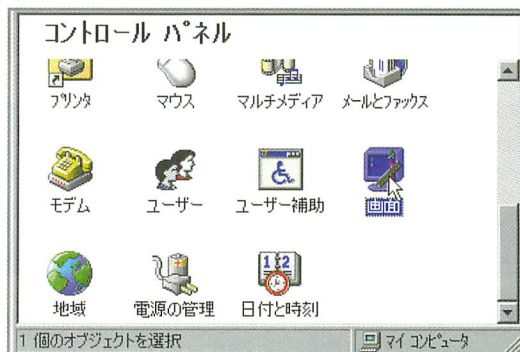
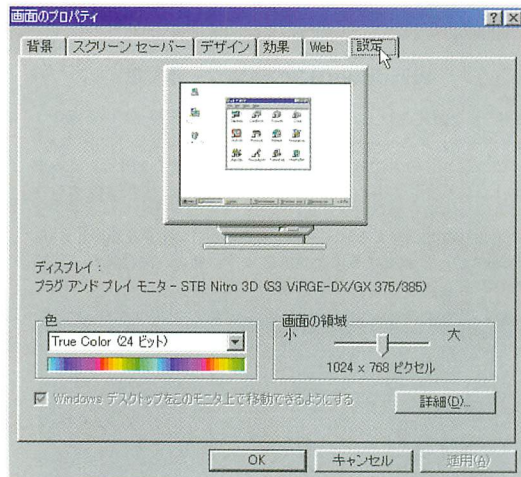
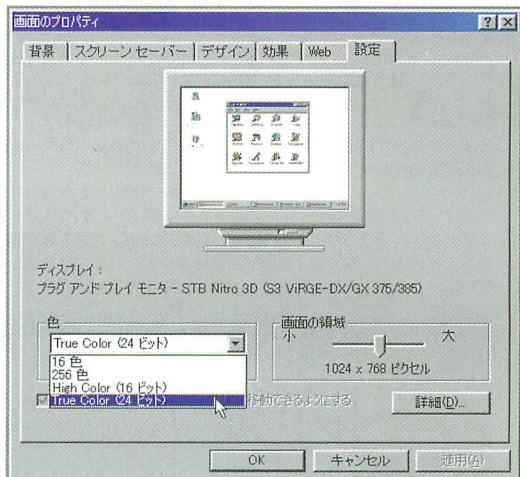
Windows98には、パソコンをメンテナンスするための便利なツールがいくつか用意されています。これらはPhotoshopユーザーにも大変有効なものなので、どんどん活用してくださいね。
[スタート] メニュー→ [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] の中にある「メンテナンスウィザード」は、「スキャンディスク」「デフラグ」「ディスククリーンアップ」をまとめて実行してくれるツールです。深夜やお昼休みなど、パソコンを使っていないときに自動的に実行するようにも設定できます。

Windows98の便利ツール　2

1ドライブが2GB以上の大きなハードディスクを使っている場合は [スタート] メニュー→ [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] の中にある「ドライブコンバータ」を実行してみましょう。ドライブコンバータはハードディスクを「FAT32」というフォーマットに変換してくれます。FAT32は大きなハードディスクをより有効に使えるフォーマットですから、空きを増やしたり、処理スピードを上げることができます。なお、出荷時にすでにFAT32になっているパソコンもあります。

モニタの色数を設定する

☞フルカラー

1,677万色表示のこと（正確には、16,777,216色）。Windowsでは「True Color」と呼ばれます。

Photoshopはフルカラーを前提としていますので、操作する前に、使用しているモニタが正しくフルカラーになっているかどうか確認しておきます。フルカラーに対応していないモニタの場合は、設定できる最高の色数にしておきます。色数が違うと結果も変わってきます。本書ではフルカラーを前提にして作業を進めますので、なるべくフルカラーに設定してください。ただし、モニタの解像度と色数は関連がありますので、色数を上げるとモニタの解像度が下がる（画面の表示範囲が狭くなる）場合があります。

1 ［スタート］メニュー→［設定］→［コントロールパネル］を選び、［画面］をダブルクリックします。

2 ［画面のプロパティ］の［設定］タブをクリックします。

3 ［色］のポップアップメニューから最高の色数を選びます。ここではフルカラー（TrueColor（24ビット））にしています。

初期設定に戻す

今日は初期設定の状態で練習を始めます。Photoshop 5.5をインストールしてから1回でも使用した方は、Photoshopがインストールされているフォルダ（通常は「Program Files」→「Adobe」→「Photoshop 5.5」フォルダ。特別付録CD-ROMのTryout版の場合は「Photoshop 5.5 Tryout」）の中にある「Adobe Photoshop5.5 Settings」フォルダの中の「Adobe Photoshop 5.5 Prefs.psp」と「Color Settings.psp」を探して、これらを削除してください。削除するにはゴミ箱にドラッグするか、右ボタンをクリックして［削除］を選びます。

Photoshopは電源を切っても、前回使用したときの状態を環境設定用のファイルが覚えていて、その状態で起動します。たとえば、前回の作業の最後に赤い色を使ったら、次に立ち上げたときも赤い色が選ばれた状態になっています。本書では一番初めの状態から説明していきますので、すでに環境設定用のファイルが作られている人は、それを捨てておいてほしいのです。捨ててしまっても、次に使ったときに自動的に新しく作られるので、心配はいりません。もし今までPhotoshopを使用している人が絶対に捨てるなと言ったのなら、とりあえず「Adobe Photoshop Settings」フォルダの外に出して、取っておいてください。その人が使うときはそれを入れ替えて使ってもらいましょう。

☞ヒント!!

他の人が使っている場合は

あなたと共同でPhotoshopを使っている人がいるなら、環境設定ファイルはいきなり捨ててしまわないで、「Adobe Photoshop Settings」フォルダの外に出しておくか、ファイル名を変更してください（たとえば、「Adobe Photoshop 5.5 環境設定（旧）」といった具合に）。

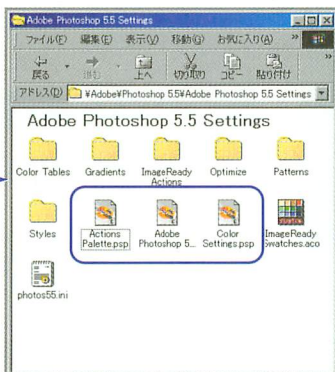
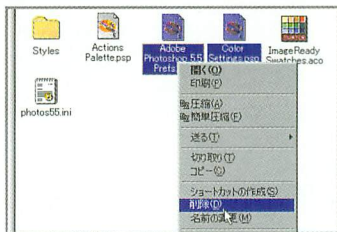
☞Adobe Photoshop 5.5 PrefsとColor Settings

「AdobePhotoshop5.5 Prefs」「Color Settings」のように、末尾に「.psp」が付いていない場合もあります。また、特別付録CD-ROMのTryout版の場合は「Adobe Photoshop 5.5 Demo Prefs」または「Adobe Photoshop5.5 Demo Prefs.psp」になります。

☞ヒント!!

Action Paletteは捨てないで

「Adobe Photoshop Settings」フォルダ内の「Actions Palette.psp」ファイルは捨てないでください。ここで捨てていただきたいのは、「Adobe Photoshop5.5 Prefs」と「Coloer Settings」の2つだけです。

1「Program Files」フォルダ→「Adobe」フォルダ→「Adobe Photoshop 5.5J」フォルダ→「Adobe Photoshop5.5 Settings」フォルダをダブルクリックします。

2 ここにPhotoshopの環境設定ファイルが収められています。起動したとき、自動的に「Adobe Photoshop Settings」フォルダの中に作られます。

3「Adobe Photoshop 5.5 Prefs」と「Color Settings」を削除します。アイコンを右ボタンでクリックして、表示されるメニューから［削除］を選びます。確認のダイアログボックスが表示されるので、［OK］します。

起動画面とツール

Photoshopを起動する

環境が整ったところで、いよいよPhotoshopを立ち上げてみましょう。練習はCD-ROMにあるデータを使って行いますので、特別付録CD-ROMの中身をハードディスクにコピーしておいてください（6ページ参照）。

まず、［スタート］メニュー→［プログラム］→［Adobe］→［Photoshop5.5］→［Adobe Photoshop5.5］を選択して起動します（図1）。環境設定用のファイルやフォントの情報などを一通り読み込んだ後、Photoshopの画面になります。

☞ショートカット

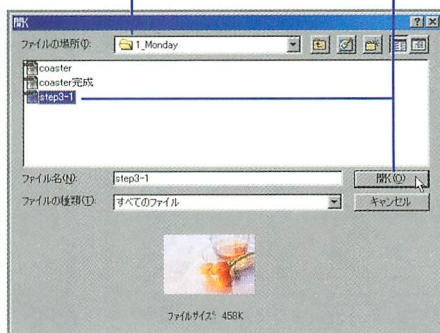
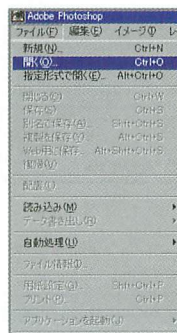
頻繁に行う操作は、いちいちメニューから選択するよりも、キーボードを使ったほうが速く操作できます。たとえばファイルを開くときは［ファイル］メニュー→［開く］を選択しますが、キーボードのCtrlキーを押しながらOキー（オープンのO）を押しても、ファイルを開くダイアログボックスが表示されます。こうしたキーの組み合わせのことをショートカットと言います。本書ではこうしたショートカットを「Ctrlキー＋O」と表記しています。

画像ファイルを開く

［ファイル］メニュー→［開く］（ショートカットはCtrlキー＋O）を選択し、特別付録CD-ROMの「1_Monday」フォルダから「step3-1.psd」ファイルを開きましょう（図2）。写真のウインドウが開きます（図3）。タイトルバーには、ファイル名が表示されていますよね。実はこのウインドウには、ファイル名以外にもさまざまな情報が隠されているのです。

1 ［スタート］メニュー→［プログラム］→［Adobe］→［Photoshop5.5］→［Adobe Photoshop5.5］を選択して、Photoshopを起動します。

(1) ▼を押して「特別付録CD-ROM」の「data」フォルダにある「1_Monday」フォルダを開く

(2)「step3-1.psd」をダブルクリック、または選択した後、［開く］ボタンをクリック

2 ［ファイル］メニュー→［開く］（Ctrlキー＋O）を選びます。特別付録CD-ROM内の「1_Monday」フォルダの「step3-1.psd」ファイルを開きます。

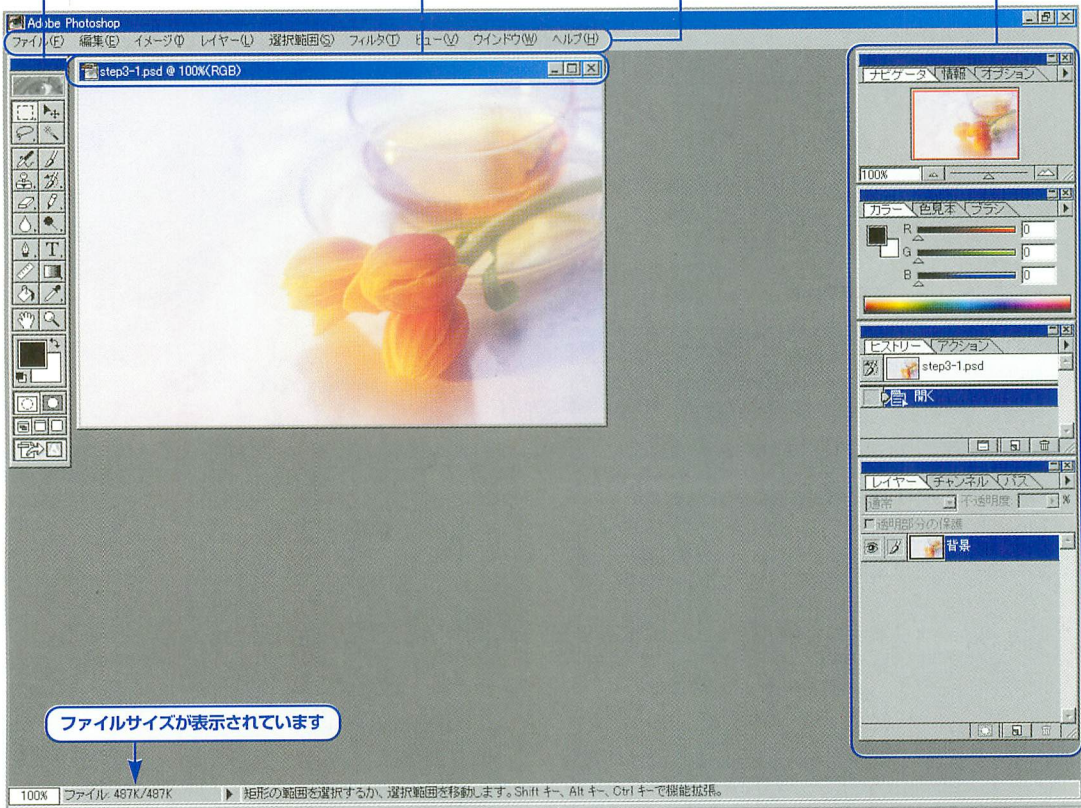
☞ヒント!!

環境設定用ファイルを捨てていないと…

パレットの位置、表示されているパレット類などが初期設定と異なっていることがあります。パレット内の細かい設定項目なども違っているかもしれません。本書ではインストール直後の状態から説明しています。環境設定ファイルができている場合はそれを捨てて、初期状態にしてから始めてください（15ページ参照）。

☞注意!!

プロファイルの不一致

特別付録CD-ROMに収録されている画像ファイルを開く際に、[プロファイルの不一致] ダイアログボックスが表示されることがあります。その場合は［変換］ボタンをクリックして画像を開いてください。

3 これが「step3-1.psd」ファイルを開いた画面です。ツールボックスが左側に、各種パレットが右側に配置されています。ツールボックスやパレットの位置は自由に動かすことができます。

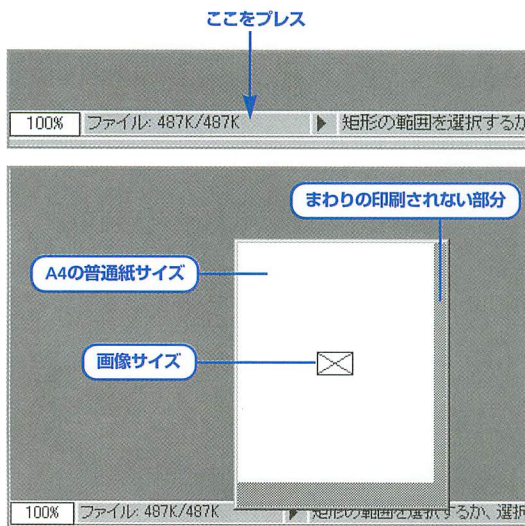
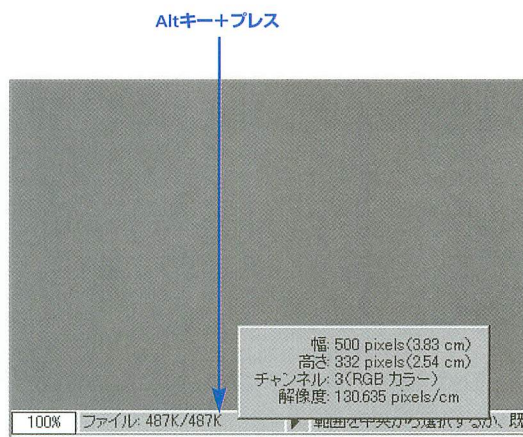
写真の大きさを調べる

ウインドウ左下には、画面表示サイズ、その右側にファイルサイズ（ファイルの容量）が表示されています。開いた写真のファイルサイズは487KB（キロバイト）ということがわかります。実はこの欄では、ファイルサイズだけでなく、いろいろな情報をチェックできます。

ファイルサイズが表示されている部分をプレスすると、プリントイメージを示してくれます（図1）。初期設定ではA4の縦の用紙サイズが選ばれているので、「A4の縦の用紙でプリントしたらこれくらいの大きさだよ」という図が表示されます。

また、ファイルサイズが表示されている部分を、Altキーを押しながらプレスすると、もっと正確に写真の大きさを数値で示してくれます（図2）。最初にどれくらいの大きさかを確かめておきましょう。プリントする前にも、こうした手順でチェックしておけば、「用紙から写真がはみ出しちゃった」なんてミスはなくなります。

☞プレス

マウスのボタンを押しっぱなしの状態を言います。

1 ファイルサイズが表示されている部分をプレスすると、プリントイメージを示してくれます。A4縦の用紙にプリントすると、これくらいの大きさの画像になる、ということがわかります。

2 ファイルサイズが表示されている部分をAltキー＋プレスすると、画像サイズを数値で示してくれます。pixels（ピクセル）や解像度については、「火曜日」のSTEP1で解説します。

画面表示を大きくする

Photoshopでは、写真の画面表示サイズを大きくしたり、またその反対に小さくすることができます。たとえば、写真の細かい修正をするときは、画面表示サイズを大きくした方が楽に決まっています。状況に合わせて画面表示サイズを切り替えられるように、いくつかの練習をしておきましょう。

画面表示の拡大は、ツールボックスの［ズーム］ツールを選んで写真をクリックします（図1）。1回クリックするとワンランク大きくなります。もう1回クリックするとさらに大きくなります。どのくらい大きくなったかは、タイトルバーまたはウインドウ左下に表示されている数値で確認できます。

ここがポイント!!

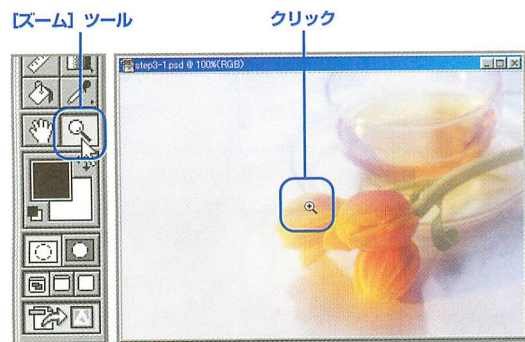
画面表示の拡大

画面表示を拡大したり、縮小する操作は、実際の作業では頻繁に行います。慣れてくると［ズーム］ツールよりショートカットを使ったほうがスピーディーに操作できます。ズームイン（拡大）はCtrlキー＋「＋」、ズームアウト（縮小）はCtrlキー＋「－」です。画面表示を拡大するのは、細かい部分を見るためです。縮小するのは画像全体を見渡すためです。画面を拡大表示にして、見たい部分をずらしたいときは［手のひら］ツールを使用します。これはスクロールバーなどを使って画面を動かすのと同じです。スクロールバーが出ていないとき、つまり全体が見えているときは、［手のひら］ツールは使えません（というか、使う必要はありませんものね）。

表示範囲を動かす

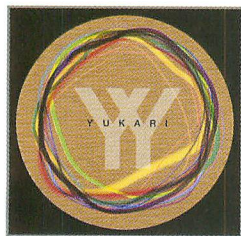
拡大した状態で写真の表示範囲を動かすには、ツールボックスの［手のひら］ツールで画面をドラッグします（図2）。また他のツールが選択されていても、スペースキーを押すと一時的にアイコンが手のひらに変わり、画面をドラッグすることができます。

画面表示を小さくする

画面表示を縮小するには、［ズーム］ツールでAltキーを押しながら（このとき、［ズーム］ツールの「＋」マークが「－」マーク に変わることをチェック）、画面をクリックします。

1 ツールボックスから［ズーム］ツールを選び、写真の文字の部分を拡大してみましょう。そこをクリックするたびに、画面は大きくなります。

2 ツールボックスから［手のひら］ツールを選び、写真をドラッグします。写真がウインドウ内でずれて、反対側が見えてきますよね。

1 WEEK MASTER
1st DAY !!!
Monday

コースターを作る

▲これから作成するコースターの完成図。

制作の流れをつかんでおく

「初日に何を作ろう？」とアートワーク担当の山崎君と相談した結果、「実際に使えるものがいい。そうだ、コースターにしよう」ってことになりました。漫然と手順を追ってみるのではなくて、「実際に使ってみよう」という気持ちで作業すれば、楽しく練習してもらえると思います。何しろ手順が長いですからね。楽しんでください。全体の流れは次の通りです。

(1) レイヤーを準備する
(2) ［ブラシ］ツールでいろんな色の線を描く
(3) 自分の名前を入れる
(4) 自分のイニシャルを入れる
(5) 重なり順を変更する
(6) 背景をアレンジする

ここがポイント!!

失敗したらすぐ戻る

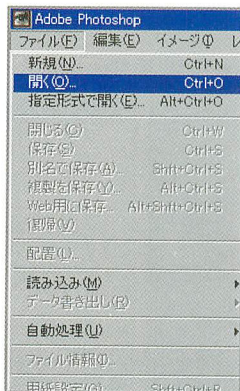
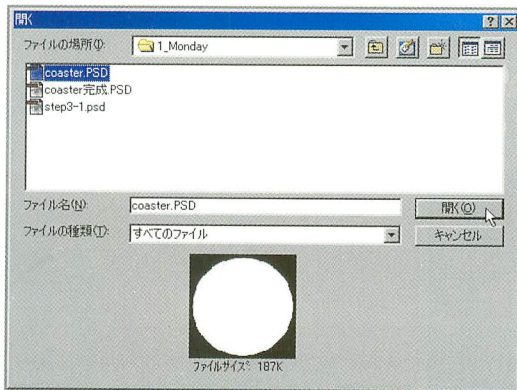
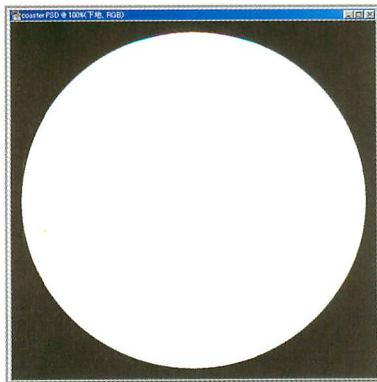
このSTEPは手順が長くなります。途中で間違えたら、すぐにCtrlキー＋Zを押せば、元に戻れます。ただし、Ctrlキー＋Zは1回しか戻れません。また、［ヒストリー］パレットを使えば、戻りたい状態にすぐに戻ることができます。

▲［ヒストリー］パレット。1つ1つの操作がリストに表示されていきます。2つ前の状態に戻りたければ、下から2つ目をクリックします

☞レイヤー

レイヤーとは「重なり」とか「層」を意味する言葉です。Photoshopでは、データを別々のレイヤーに作成することができ、［レイヤー］パレットで重なり順などを管理します。レイヤーに関しては「水曜日」に詳しく解説しますので、今日はレイヤーに慣れておきましょう。

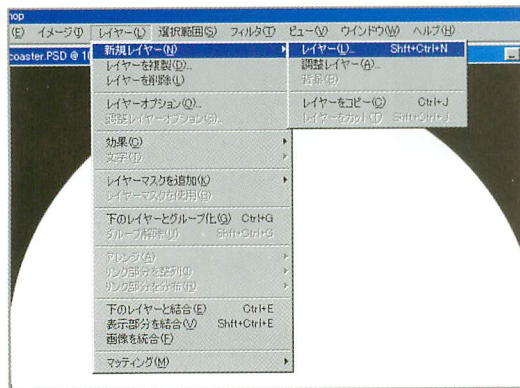
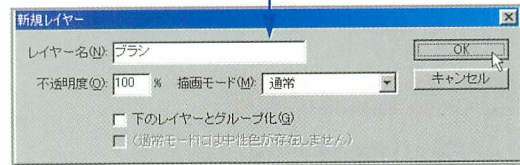
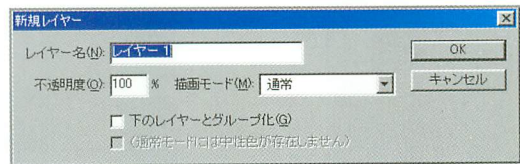
レイヤーを準備する

まずコースターのフォーマットのファイル「coaster.psd」を開き、線を描くためのレイヤーを用意しましょう。

1 ［ファイル］メニュー→［開く］（Ctrlキー＋O）を選びます。

2 「1_Monday」フォルダにある「coaster.psd」というファイルを開きます。

3 これから作成するコースターのフォーマットが開きます。

4 ［レイヤー］パレットで［下地］レイヤーが選択されていることを確認してください（グレー表示になっています）。選択されていなければ、［下地］と表示されているところをクリックして選択します。

ヒント!!

［レイヤー］パレットを出す

［レイヤー］パレットが画面に出ていないときは、［ウインドウ］メニュー→［レイヤーの表示］を選びます。

5 ［レイヤー］メニュー→［新規レイヤー］→［レイヤー］（Shift＋Ctrlキー＋N）を選んで、新しいレイヤーを出します。

6 レイヤーに名前を付ける画面が出てきます。［レイヤー1］と入力されている文字をいったん削除して、［ブラシ］と入力し直します。

7 ［レイヤー］パレットを見てみると、いま作った［ブラシ］レイヤーが作成されています。

ヒント!!

レイヤーの選択

レイヤーを選択するには、［レイヤー］パレット上でクリックします。

ブラシで線を描く

ブラシで遊ぶためのレイヤーが準備できましたので、そのレイヤーに、色とりどりの線を[ブラシ]ツールで描いてみましょう。[ブラシ]ツールは、実際にマーカーで線を描くようにドラッグするだけですから、とっても簡単です。ただし、描き始める前に、ブラシの色、ブラシの形を指定するのを忘れないようにしてください。

ヒント!!

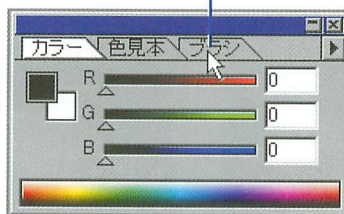
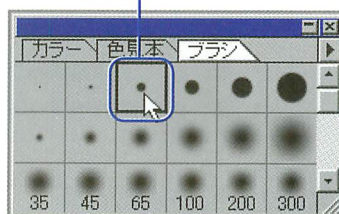
ツールの選び方

ツールボックスの各ツールはクリックして選びます。選択されたツールは、ツールのボタンがへこんだ状態になります。使用するツールがすでに選ばれていれば、クリックして選び直す必要はありません。

ここがポイント!!

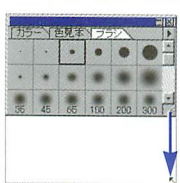
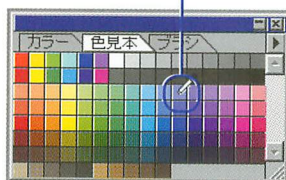
パレットの切り替え

[カラー]パレット、[色見本]パレット、[ブラシ]パレットの3つは1つにまとまっています。パレット上部のタブをクリックして、それぞれのパレットに切り替えます。

1 ツールボックスから[ブラシ]ツールをクリックして選びます。

2 [ブラシ]タブをクリックして、[ブラシ]パレットに切り替えましょう。

3 [ブラシ]パレットから、これから使用するブラシ形状を指定します。図と同じものをクリックして選んでください。

ヒント!!

[ブラシ]パレットを広げる

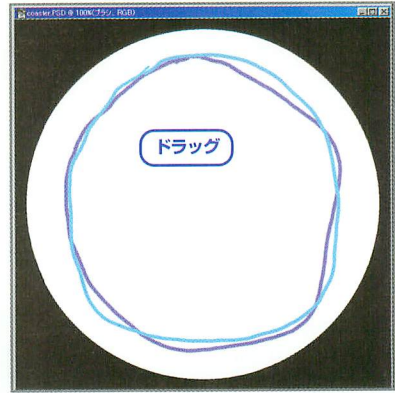
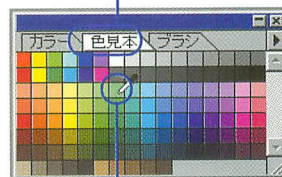
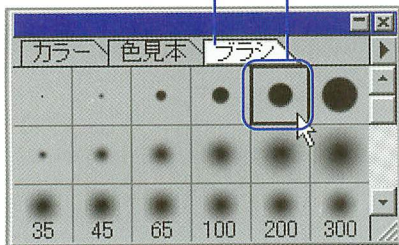
ブラシパレットにはたくさんのブラシ形状が用意されています。選択したいブラシが表示されていないときは、[ブラシ]パレットのスクロールアローをクリックするか、ズームボックスをドラッグして、[ブラシ]パレットを広げてください。

4 [色見本]タブをクリックして[色見本]パレットに切り替え、薄紫色を選びます。

5 コースターの円に合わせてドラッグして線を描きます。なるべく途中でマウスボタンを離さないように頑張ってください。

6 [ブラシ] ツールで1周します。思ったように描けなかったら、[取り消し] コマンドを使ってください。

☞ヒント!!

[取り消し] のショートカット

気に入ったようにならなかったら、[編集] メニューの一番上に表示されている [取り消し] を選びます。[取り消し] は、ひとつ前の状態に戻ってくれる便利なコマンドです。操作に合わせてコマンドの表記が変わり、ここでは [ブラシツールの取り消し] となっています。頻繁に使いますので、ショートカット（Ctrlキー＋Z）を覚えましょう。

7 [色見本] パレットに切り替えて、今度は水色を選び、さきほどと同様に、コースターの円に合わせて1周するよう線を描きます。

8 [ブラシ] パレットに切り替えて、さきほどより少し太めのブラシ形状を選びます。

9 [色見本] パレットに切り替えて薄緑を選び、同様にコースターの円に合わせて1周するように線を描きます。これで3本の線ができました。

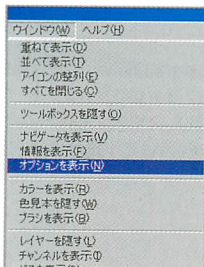
オプションパレットを使う

[オプション] パレットとは、[ブラシ] ツールの細かい設定を行うためのパレットです。これを使えば、特殊な描画方法で描くことができます。ブラシ以外のツールでも、細かい設定をするときには [オプション] パレットを使います。

☞ヒント!!

[ブラシツールオプション] パレットを出す

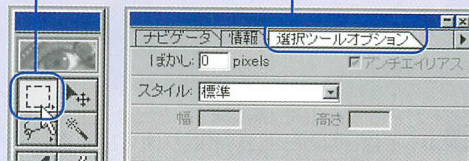
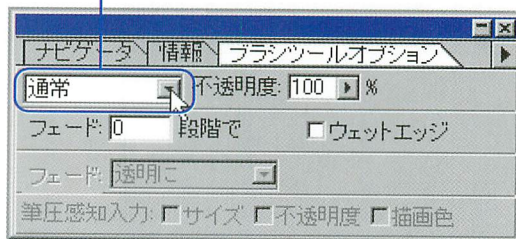
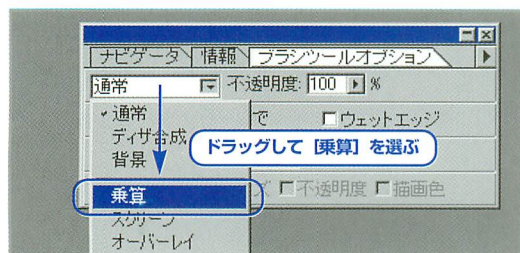
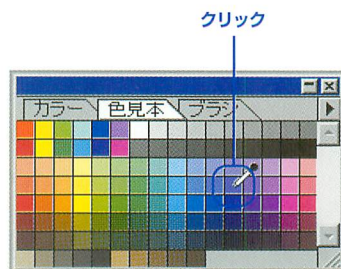
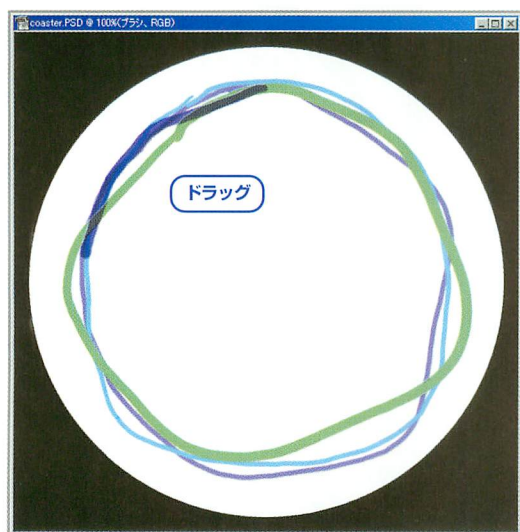
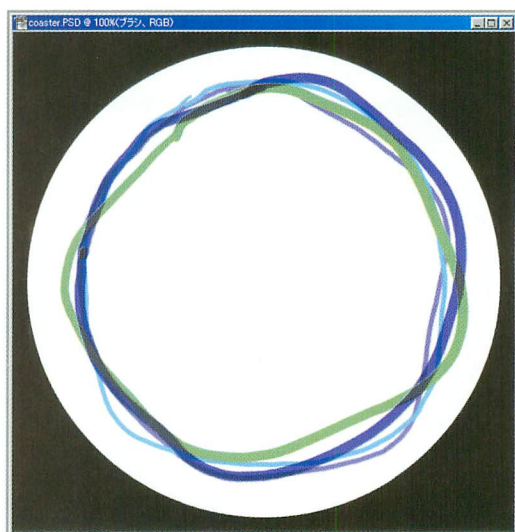
[ブラシツールオプション] パレットが出ていないときは、[ウインドウ] メニューの [オプションを表示] を選びます。

☞ヒント!!

[ブラシツールオプション] パレットのショートカット

ツールボックスの [ブラシ] ツールをダブルクリックすると、[ブラシツールオプション] パレットが現れます。

ここがポイント!!

変幻自在の [オプション] パレット

ツールボックスのほとんどのツールは、[オプション] パレットで細かい設定を行えるようになっています。[オプション] パレットは、選択しているツールによって内容が変わり、タブに表示されている名称も変わります。たとえば、[選択] ツールを選んでいるなら、[選択ツールオプション] というパレットになるのです。

1 [オプション] パレットは、[ナビゲータ] パレット、[情報] パレットと一緒にまとめられています。[ブラシ] ツールが選択されたままの状態で、ウインドウ上部の [オプション] タブをクリックして [オプション] パレットに切り替えてください。

2 [ブラシツールオプション] パレットが現れます。[通常] と書かれたところの▼をプレスしてください。

3 ポップアップメニューが現れますので、その中から［乗算］を選びます。

4 ［色見本］パレットから青紫色を選びます。

5 さきほどと同様に、コースターの円に合わせて1周するように線を描いてください。

6 ［乗算］を選ぶと、インクや水彩絵の具を使ったように、下の色に重ねて線を描くことができます。

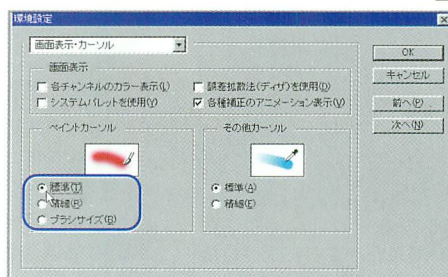
☞ヒント!!

ブラシツールのマウスポインタを変える

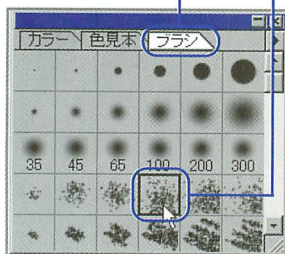
初期設定では、ブラシのマウスポインタは円になっています。この円は、選択されているブラシのサイズを表していて、［ブラシ］パレットから大きなサイズのブラシを選ぶと、［ブラシ］ツールのマウスポインタの円も大きくなります。［ファイル］メニュー→［環境設定］→［画面表示・カーソル］で、ブラシなどのツールのマウスポインタを変えることができます。好みや状況に合わせて変更してください。

▶［標準］は、マウスポインタがツールで現わされるので、感覚的にはこれが一番わかりやすいでしょう。［精細］はクロスマーク、［ブラシ］はブラシのサイズでマウスポインタが現されます。

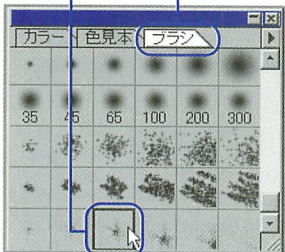
かすれた線を描く

［ブラシ］パレットには、円形のブラシ以外にも面白い形状がたくさん用意されています。こうしたブラシを利用することで、刷毛で描いたようなかすれた線を作成することができます。

☞新機能!!

かすれたブラシ

5.5では［ブラシ］パレットに登録されているブラシの形状が増えました。単純な円形のものだけでなく、かすれたブラシが追加され、計36種類にもなりました。

1 ［ブラシ］パレットに切り替え、かすれたブラシ形状を選びます。

2 ［色見本］パレットに切り替え、オレンジ色を選びます。

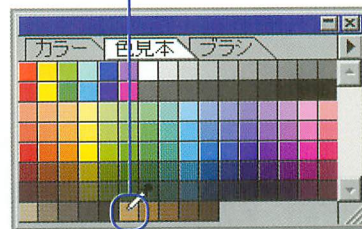
3 さきほどと同様に、コースターの円に合わせて1周するように線を描いてください。刷毛で描いたように輪郭が少しかすれていますよね。［ブラシツールオプション］パレットで［乗算］が選ばれたままなので、下の色に重なって描かれます。

4 ［ブラシ］パレットに切り替え、かすれたブラシ形状の小さめのものを選びます。

5 ［色見本］パレットに切り替え、薄紫色を選び、コースターの円に合わせて1周するように線を描きます。いろいろなブラシと色を使って、たくさんの線を描いてみましょう。

白地を塗りつぶす

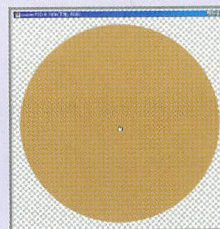
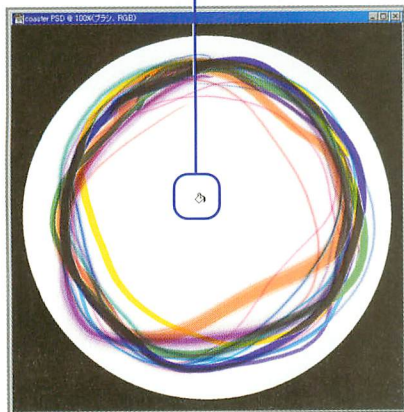
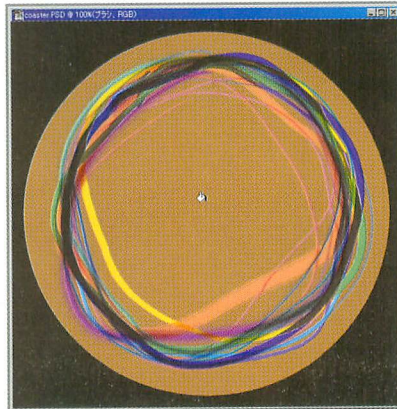
今度は、[下地] レイヤーに色をつけてみましょう。レイヤーの切り替えを忘れずに行ってください。

1 まず、目的のレイヤーを選びましょう。[レイヤー] パレットから、[下地] レイヤーをクリックして選びます。

2 ツールボックスから [塗りつぶし] ツールを選びます。

3 [色見本] パレットに切り替え、薄茶色を選びます。

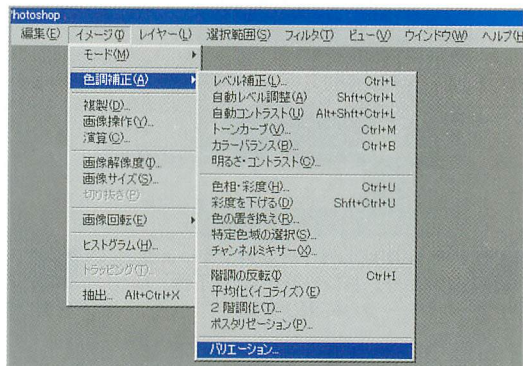
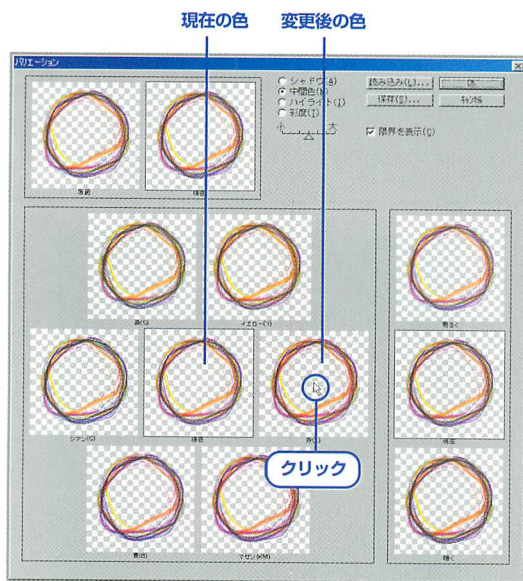
ここがポイント!!

塗りつぶしは選択されているレイヤーにだけ有効

[下地] レイヤーの上には、ブラシで描いた線のレイヤーが重なっていますが、ここでは [下地] レイヤーが選択されているので、ブラシで描いた線は塗りつぶしの影響を受けません。右図は [下地] レイヤーだけを表示させた状態です。実際はこの上に [ブラシ] レイヤーが重なっているのです。

4 [塗りつぶし] ツールで、コースターの白い部分をクリックします。

5 白地が薄茶色で塗りつぶされました。

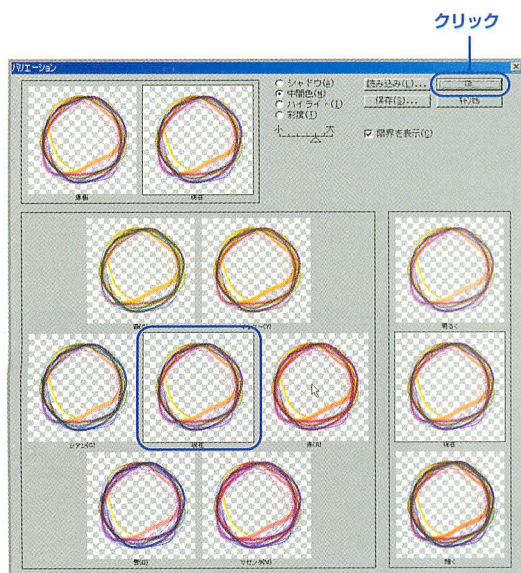
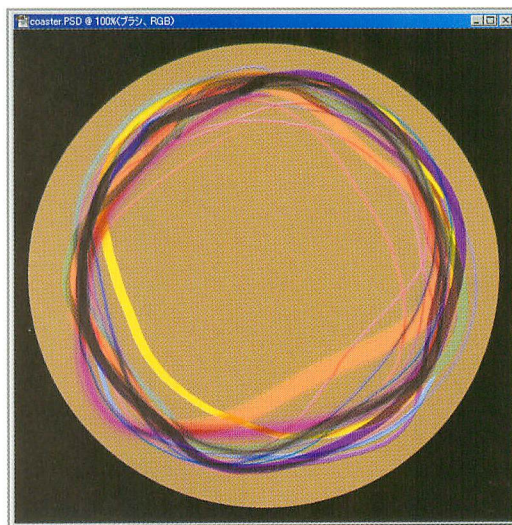
カラーバリエーションを楽しむ

実はブラシで描いた色は、どんな色にでも変えることができます。Photoshopには色を変える機能が何種類も用意されています。その中で、「バリエーション」が一番簡単。もちろん写真の色を変えるときにも便利です。

1 ［レイヤー］パレットの［ブラシ］レイヤーをクリックして選択します。

2 ［イメージ］メニュー→［色調補正］→［バリエーション］を選びます。

3 ［バリエーション］ダイアログボックスが現れます。［現在］の右側が［赤（R）］ボタンです。これを1回クリックして、全体を少し赤くしてみましょう。

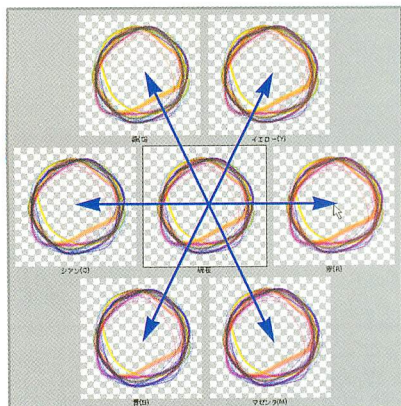
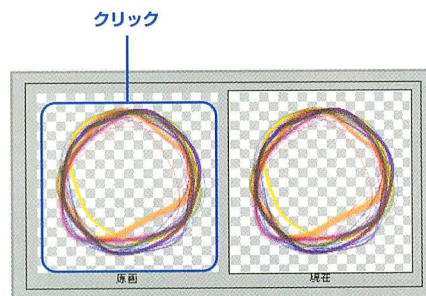
ここがポイント!!

バリエーションの色の変化

「バリエーション」コマンドは、カラーバリエーションをダイアログボックスで表示してくれます。たとえば、少し赤みを強くしたいなと思ったら、［赤（R）］ボタンをクリックします。もっと赤を強くしたいなら、もう一度［赤（R）］ボタンをクリックします。変化の度合いはダイアログボックス右上のスライダで指定でき、［小］に近いほど変化の度合いが弱く、［大］に近づけるほど、1回のクリックでの変化量が大きくなります。

4 赤を強めた結果が、ダイアログボックス中央の［現在］に表示されています。色はこれで確定しますので、［OK］ボタンをクリックします。

5 ブラシで描いた線が、全体的に赤っぽくなりました。

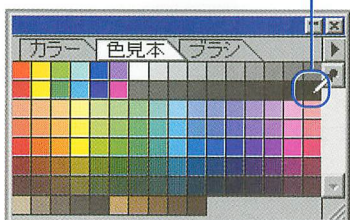
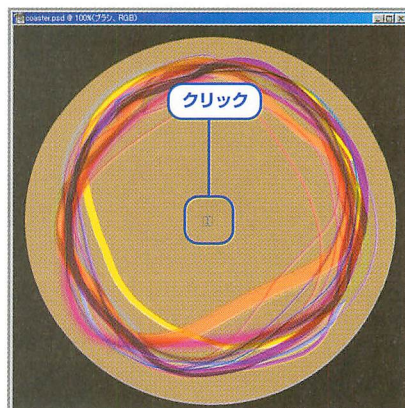
☞ヒント!!

元の色に戻したいんだけど…

「バリエーション」で色のボタンをクリックしすぎて、「やっぱり元の色に戻したい」と思ったら、［現在］を中心にして反対側の色をクリックします。たとえば、右側の［赤（R)］をクリックし過ぎたら、左側の［シアン（C)］のボタンをクリックします。シアン（水色）を加えることで、赤みを減らすことができるのです。一番最初の色に戻したいときは［原画］をクリックしてください。
色については、「火曜日」に詳しく説明します。

▲1つ前の色に戻す。

▲一番最初に戻す。

文字を入力する

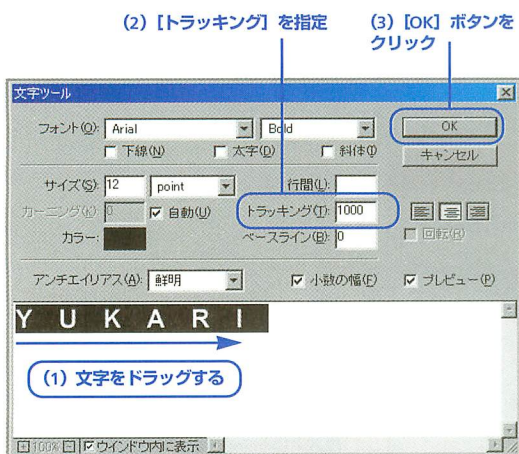
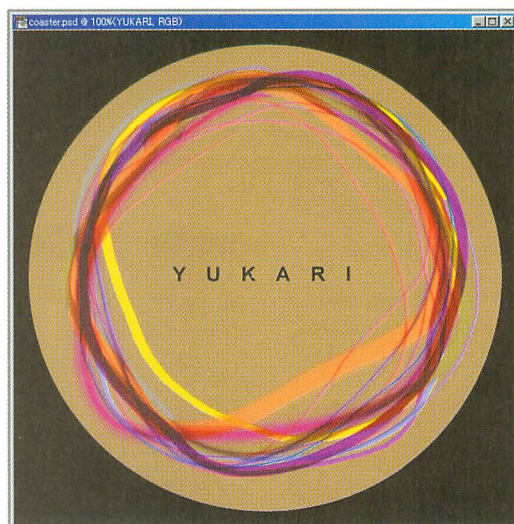
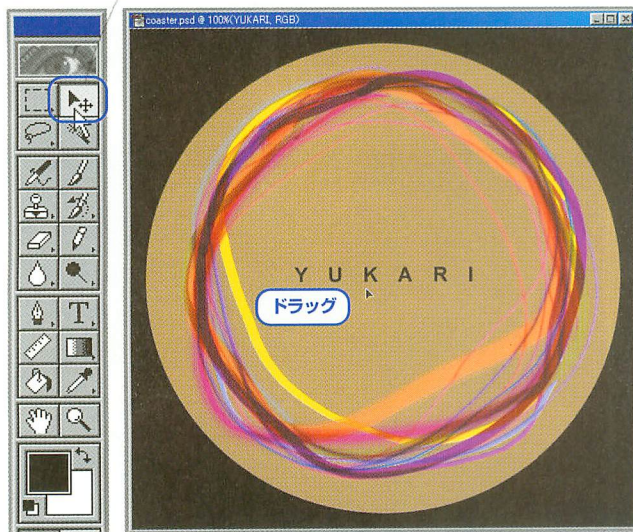
Photoshopは写真を加工するソフトなのですが、文字を使ったデザインも可能です。これから文字入力の基礎を練習しますが、文字については、もっと効果的な面白い使い方がたくさんあります。それは「水曜日」以降で練習するとして、ここでは、「入力した文字はレイヤーとして作成される」ということを覚えてください。

1 ツールボックスから[文字] ツールを選びます。

2 [色見本] パレットで黒色をクリックしてください。これが文字色になります。

3 [文字] ツールでコースターの中央をクリックします。

4 文字を入力するためのダイアログボックスが現れます。[フォント] を [Arial] の [Bold] に、[サイズ] を [12] ポイントに、[行揃え] を [中央揃え] に設定します。そして入力ボックスに自分の名前を入力してください。

ヒント!!

英字を入力するには

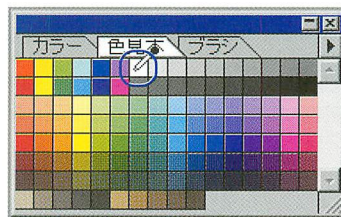
キーボードのAltキーを押しながら [半角／全角] キーを押すと切り替わります。

5 入力した文字をドラッグして選択し、［トラッキング］の入力ボックスに［1000］と入力します。これで文字の間隔が広がります。設定が済んだら［OK］ボタンをクリックします。

6 設定した通りに、文字がコースター上に作成されました。

7 ツールボックスから［移動］ツールを選び、文字をドラッグして位置を調整します。コースターのちょうど中央に来るように動かしてください。

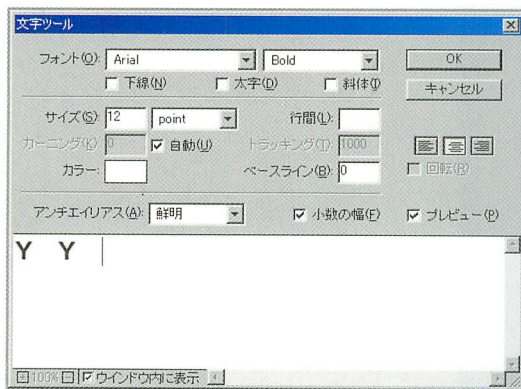
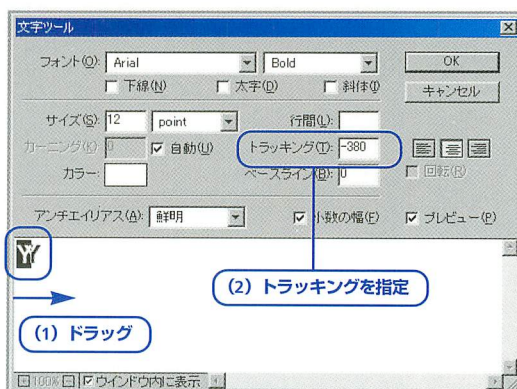
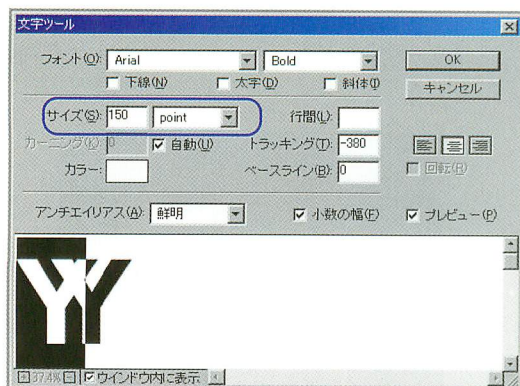
文字を利用してマークを作る

タイポグラフィという言葉を知っていますか？　ここではアルファベット2文字をデザインしてマークのようなものを創作しますが、こうしたことがタイポグラフィです。既存の文字、あるいはデザインした文字をビジュアルとして効果的に使うことを意味します。

☞タイポグラフィ

デジタルデザインの世界では、デジタルフォントを使って文字を組むこと、またはビジュアル素材として効果的に文字をアレンジすることを指します。ネビル・ブロディなど、かっこいい作品を作るタイポグフラファーの登場で注目を集めた言葉です。DTP以前の活版印刷時代は、その印刷技術を意味する言葉として使われていたそうです。

▲タイポグラフィの例。文字をビジュアル的に配置しています。

1 ツールボックスから [文字] ツール（[横書き文字] ツール）を選びます。

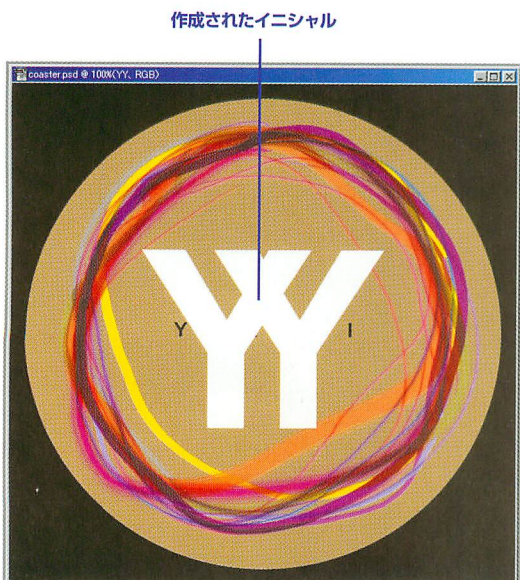
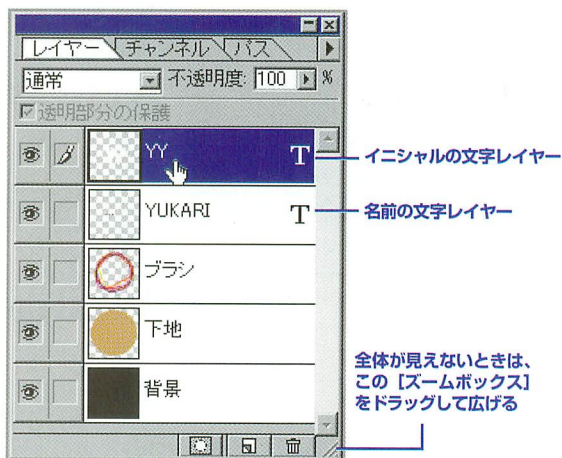
2 [色見本] パレットから白色を選びます。これが文字の色になります。

3 文字の入力ボックスに、名前の頭文字を入力します。前回のトラッキングの設定が残っているので、文字の間が広がっていますね。この設定を変更しましょう。

4 2つの文字をドラッグして選択し、[トラッキング] の数値を [−380] とします。マイナスの数値を入力すると、文字の間隔が狭くなり、2つの文字が重なります。

5 文字が選択されている状態のまま、［サイズ］を［150］ポイントにします。

☞ヒント!!

文字の表示サイズ

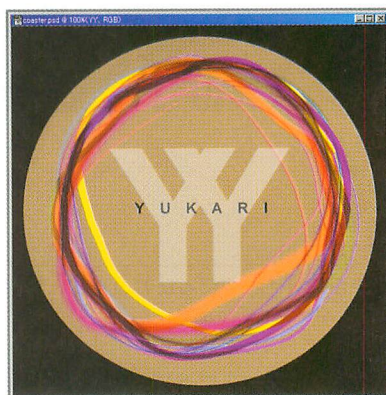
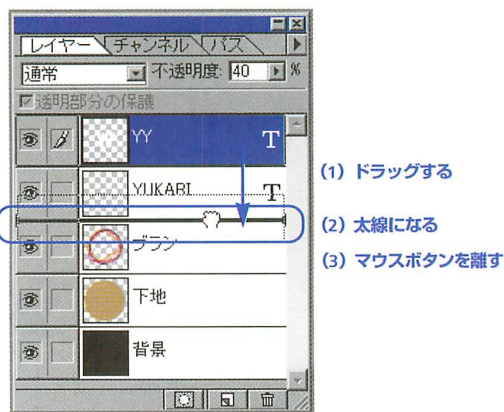
［文字ツール］ダイアログボックス内の入力文字を大きいサイズを指定すると、ウインドウに入りきるように縮小表示されます。ダイアログボックス左下の［ウインドウ内に表示］チェックを外しておくと、［サイズ］で指定した大きさで表示されます。

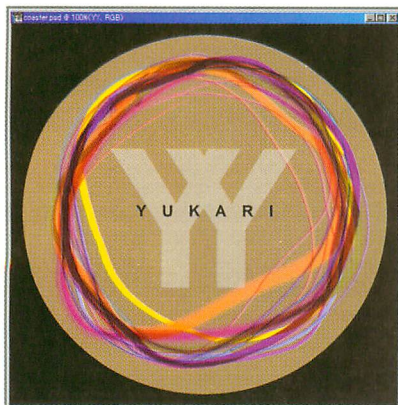
▲［ウインドウ内に表示］のチェックを外すと、実際の大きさで表示されます。

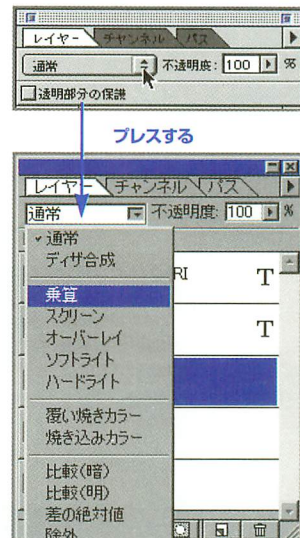
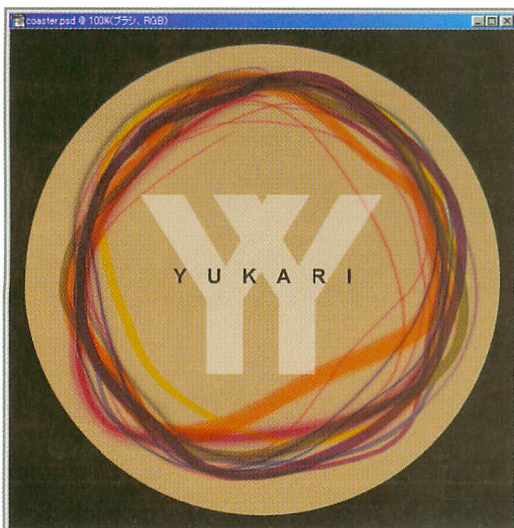
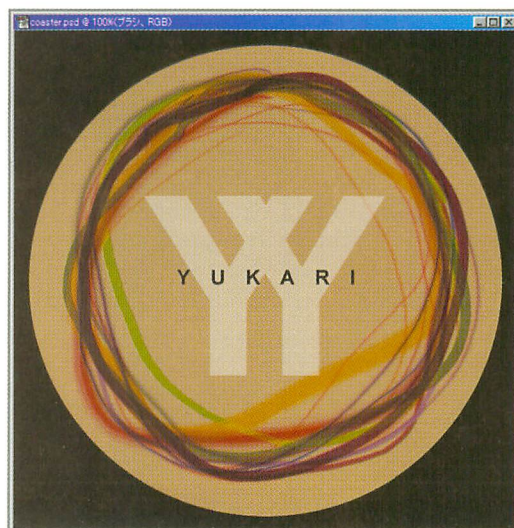
作成されたイニシャル

6 白いイニシャルが作成されました。現在は名前が下に隠れてしまっていますが、次のステップで文字の重なり順などを変更しますので安心してください。

7 ［レイヤー］パレットを見てください。イニシャルとさきほど入力した名前とは、それぞれ別のレイヤーとして作成されています。レイヤーの名前は自動的に、入力した文字と同じになるのです。

半透明と重なり順の変更

［レイヤー］パレットは、レイヤーの状態を表示しているだけではありません。実は、いろいろな機能が隠されているのです。Photoshop達人への第一歩は、「レイヤーの使いこなし」にあります。今日はレイヤーに慣れるということで、「レイヤーを半透明にする」「レイヤーの重なり順を変える」「レイヤーを特殊な方法で重ねる」の3点を練習してみましょう。

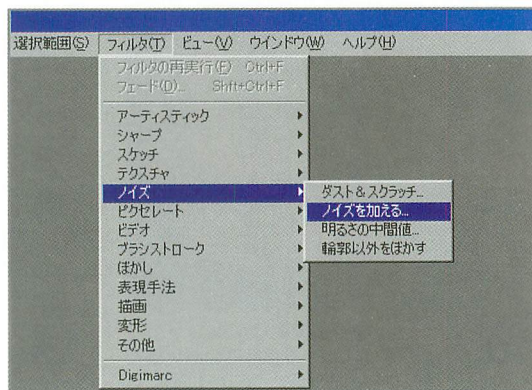
1 ［レイヤー］パレットのイニシャルのレイヤー（［YY］レイヤー）が選ばれている状態で、［不透明度］をプレスします。スライダが表示されますので、△をドラッグして数値が［40］前後になるようにします。

2 イニシャルのレイヤーが半透明になり、下の文字や地の色が透けて見えます。

3 ［レイヤー］パレットのイニシャルのレイヤー（［YY］レイヤー）をつかんで、名前のレイヤー（［YUKARI］レイヤー）と［ブラシ］レイヤーとの間までドラッグします。移動先が太線になることに注目してください。

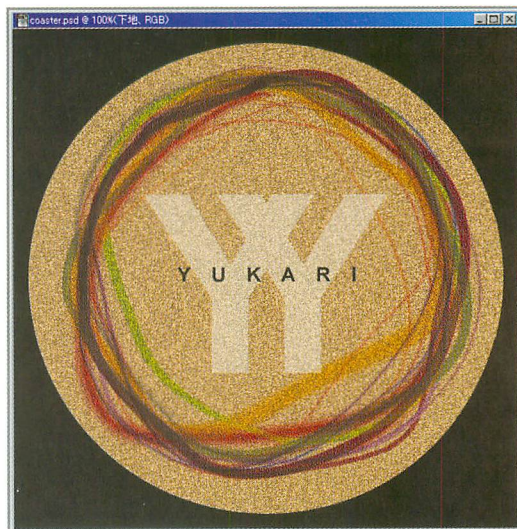
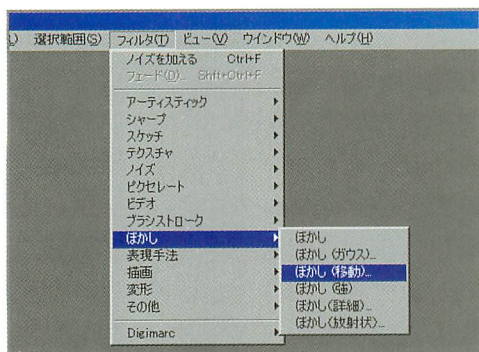
4 名前のレイヤー（［YUKARI］レイヤー）が一番上に、イニシャルのレイヤー（［YY］レイヤー）がその下になりました。

5 イニシャルが名前の後ろに重なったのがわかりますよね。本当はこのあたりで完成としてもいいのですが、もう少し遊んでみましょう。

6 ［レイヤー］パレットの［ブラシ］レイヤーをクリックして選びます。

7 ［描画モード］の▼をプレスして［乗算］にします。

8 レイヤーを［乗算］にすることで、線の色が下地に染み込んだようになります。

9 ［乗算］にすると線の色が多少変わりますので、変更が必要なら、各自でさきほど練習した［イメージ］メニュー→［色調補正］→［バリエーション］を選択して色を調整してください。

下地の質感を変える

［フィルタ］メニューには、遊べるコマンドがたくさん用意されています。ここでは2種類のフィルタを使ってみますが、この2つは一緒に使うことが多いので、組み合わせて覚えておくとよいでしょう。

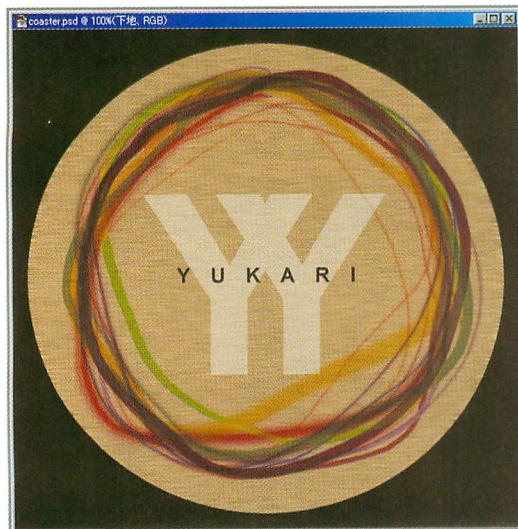
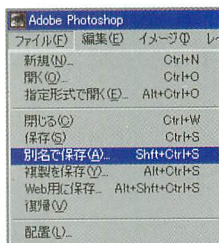
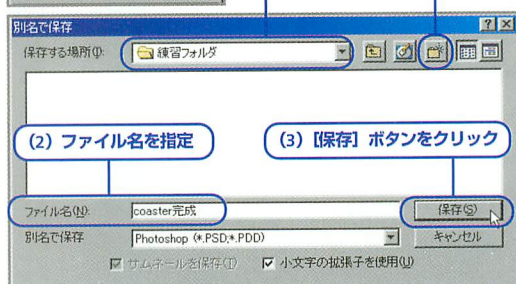
1 ［レイヤー］パレットの［下地］レイヤーを選びます。

2 ［フィルタ］メニュー→［ノイズ］→［ノイズを加える］を選びます。

3 ［ノイズを加える］ダイアログボックスが現れます。［グレースケールノイズ］にチェックを入れ、スライダの△をドラッグして［ノイズの量］を［60］前後にします。

4 下地にノイズが入って、ざらざらした感じになります。ちなみに、［グレースケールノイズ］にチェックしないと、もっとカラフルなノイズになります。

5 [フィルタ] メニュー→ [ぼかし] → [ぼかし(移動)] を選びます。

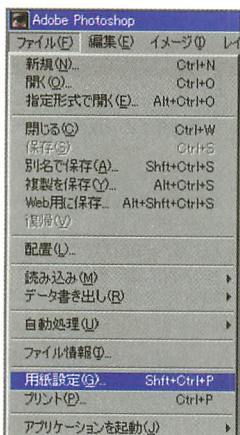
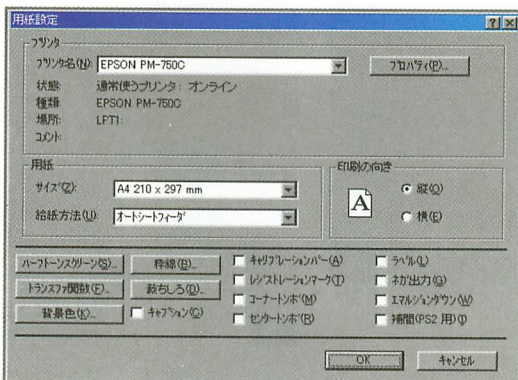
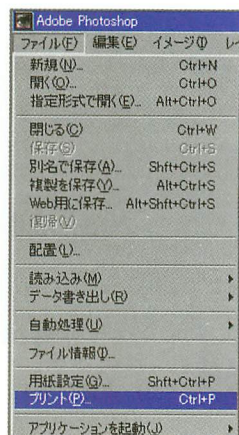
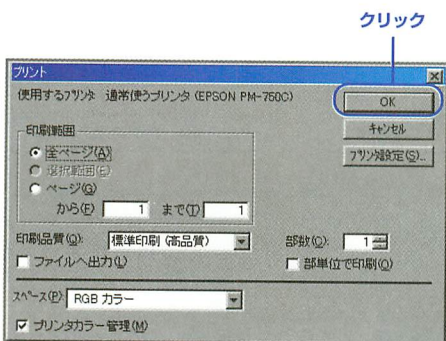
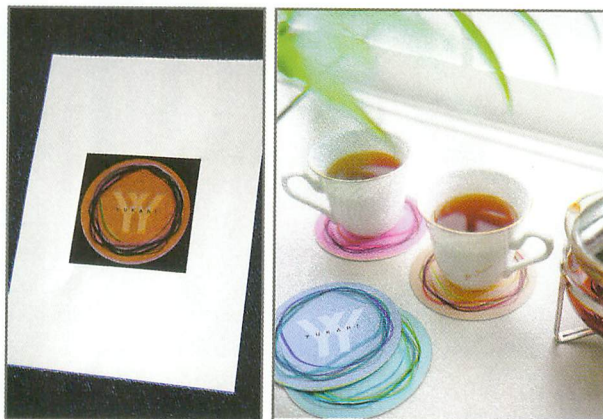
6 [角度] は [0] 度の初期設定のまま、[距離] のスライダで△をドラッグして数値を [20] ピクセル前後にします。

☞ヒント!!

[ノイズ] あっての[ぼかし (移動)]

[ぼかし (移動)] は、画面上の粒子を移動させるフィルタです。だから、1色で塗られたままで実行しても何も変化しません。[ノイズ] で粒子を作ってこその効果なのです。

7 これで完成です。同じようにできましたか？　うまくいった人も、そうでない人も、保存をしておきましょう。フォーマットは最初の状態で残しておきたいので、[別名で保存] コマンドで保存します。

8 [ファイル] メニュー→ [別名で保存] を選び、保存する場所とファイル名を指定して、[保存] ボタンをクリックします。ここでは「練習フォルダ」というフォルダを作って、「coaster完成.psd」という名前で保存しました。完成ファイルが特別付録CD-ROMの「1_Monday」フォルダに収録されていますので、参考にしてください。

印刷する

もしカラープリンタがつながっているなら（そして余力が残っているなら）、コースターをプリントしてみましょう。やや厚手で水に強い紙にプリントして、ボール紙などの厚紙にのりで貼り付け、周りをカットすればできあがり。

1 ［ファイル］メニュー→［用紙設定］（Shift＋Ctrlキー＋P）を選びます。

2 用紙設定のダイアログボックスが現れます（ここではEPSONのカラープリンタを使っていますので、皆さんの画面とは異なることがあります）。用紙サイズを［A4］に、印刷方向を［縦］にして、［OK］ボタンをクリックします。

3 ［ファイル］メニュー→［プリント］（Ctrlキー＋P）を選びます。

4 ［部数］にプリント枚数を入力し、品質の設定などを行ったら、［OK］ボタンをクリックします。

5 実際に紙に印刷してみました。余力がある方は台紙に貼って丸くカットし、コースターを完成させましょう。